２０２２・１２・４　　黄金井尚美　主任牧師

＜イエスのことばを信じて＞

ヨハネ４：４６～５４

ヨハネ福音書では奇跡を「しるし」と呼んでいる。

この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟子たちの前で行われた。しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。　ヨハネ２０：３０、３１

「しるし」が示している目的は何か。
預言者や使徒たちを通して記され、語られ続けた言葉が、
神の言葉であることを証明するため。

イエス様は弟子達に、福音を宣べ伝えるように命じて天に上げられた。
そして弟子達は･･･
そこで、彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた。　マルコ１６：２０

パウロの宣教においても
それでも、ふたりは長らく滞在し、主によって大胆に語った。主は、彼らの手にしるしと不思議なわざを行わせ、御恵みのことばの証明をされた。　使徒１４：３

イエスキリストのうわさを聞いてやって来た人
「王宮に仕える役人」・・・王の家臣・身分も高く地位のある人。
イエス様が奇跡の御業をなされるとの噂を聞いてやってきた。藁をもすがる思い。
一緒にカペナウムにまで来て、息子に会って癒して欲しいと頼んだ。

息子の癒しを願う役人に対して、イエス様の最初の言葉は

イエス様　「あなたがたは、しるしと不思議を見ない限り、決して信じない。」４８節

役人　「主よ。どうか私の子どもが死なないうちに下って来てください。」４９節

しかしイエス様は一人で行くように言われた。
「見放された」と受け取るか。「息子は助かる」と受け取るか。

イエスは彼に言われた。「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。」
その人はイエスが言われたことばを信じて、帰途についた。　５０節

◆イエス様が一緒に来なければ、息子は治らないと考えていた父親に対して、
イエス様は「聞いて信じる」生き方、信仰を転換することを迫った。

カナから急ぎカペナウムの家に向かう道のり。父親の心中は・・・。
助からないという不安と恐れ　　対　　イエス様のことば

しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。「主よ。だれが私たちの知らせを信じましたか」とイザヤは言っています。 そのように、信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。でも、こう尋ねましょう。「はたして彼らは聞こえなかったのでしょうか。」むろん、そうではありません。「その声は全地に響き渡り、そのことばは地の果てまで届いた。」ローマ１０：１６～１８

きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。
この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられる
みどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。　ルカ２：１２